

大仙市大曲地域の角間川町地区は、藩政期から明治期にかけて東北地方を代表する舟運の一つである雄物川舟運の中核的な中継河港として大いに繁栄したことから、貴重な文化遺産が多数残されています。

とりわけ、大仙市のみならず本県の歴史を語るうえで欠くことのできない旧地主町の屋敷群が良好に残っています。

大仙市では、これらを計画的に整備して多面的に活用し、大仙市総合計画の理念である、「人が生き人が集う夢のある田園交流都市」の実現に向けたまちづくりを積極的に推進していくための基本計画を策定いたしました。

本事業は、地域に残る歴史や文化などの文化遺産をみんなで再確認し地域に元気を取り戻そうとするまちづくりの、大仙市における嚆矢となる事業と考えております。

どうぞ本計画に対して、皆様からのご協力とご助言を賜りますようお願い申し上げます。



## 河港のまち角間川・歴史まちづくり事業の概要

発行 平成30年(2018)3月  
 発行者 秋田県大仙市・大仙市教育委員会  
 編集 大仙市教育委員会  
 〒014-0062 秋田県大仙市大曲上栄町2-16  
 編集者 生涯学習部 文化財保護課  
 〒014-0805 秋田県大仙市高梨字田茂木10  
 電話 0187-63-8972 FAX 0187-63-8973

### 表紙絵「河港繁盛の図」画/北島精六

大仙市指定有形文化財「角間川港の図」(明治6年)を平成10年に模写した絵画。

「角間川港の図」が描かれた明治6年は、明治維新以降の経済の発展とともに雄物川舟運における流域最大の中継河港である角間川がさらなる繁栄を迎えていた時期である。

絵には、帆を上げ雄物川を行きかう川船、花街としてにぎわった藤木八圭の料亭などの様子や、まちを行きかう馬車や人々、川岸一帯に大きな倉庫が多数並び建つ壮観な様子などが描かれている。

## 河港のまち角間川・歴史まちづくり事業の概要

～雄物川舟運の歴史を伝える建造物等を活かしたまちづくり～



### 洋画家 北島 精六(きたしま せいりく)

1920年(大正9)、平鹿郡角間川町(現在の秋田県大仙市角間川町)に生まれる。1943年、東京多摩美術大学を卒業。同年、光風会展に初入選。1956年、1957年、1960年、日展に入選。1958年、創元会会員となり中央画壇で活躍する(現在は創元会名誉会員・神奈川県茅ヶ崎市在住)。

### 雄物川舟運の要となった中継河港 河港のまち「角間川」の歴史

歴史的文化遺産の継承と活用  
本郷家・北島家・荒川家の沿革

整備事業の概要  
川のまち歴史交流の杜



# 雄物川 舟 運の要となった中継河港 河港のまち「角間川」の歴史

秋田県大仙市の角間川町地区は、秋田県の内陸南部に広がる国内有数の穀倉地帯である横手盆地の中央部に位置し、盆地西縁を北に向かって流れる「秋田の母なる川」とも称される雄物川とその支流の横手川の合流点に位置します。

角間川は、「関ヶ原の戦い」後に改易されたこの地方の豪族「小野寺」氏の城主格を含む旧臣72人が慶長7年(1602)に久保田藩(秋田藩)に仕官を願ひ出て給人となり(後に梅津半右衛門憲忠組下に編成)、慶長8年から侍の身分を持ちながら農夫として荒地の開墾を行い、新田開発により今日の基礎を築きました。

江戸時代に、角間川港が米穀を中心とした物資の集積地、また生活物資等の集散地として、雄物川舟運の要衝に位置づけられたことから、角間川は、大いに繁栄し、その繁栄の中で商業的な地主が成立して、明治期には県内を代表する地主町として知られるようになりました。

角間川の近世における内町(侍町)と外町(商人町)といった町割り、大仙市内では特徴的であり、現在でも内町には、侍町の特徴を表す鉤型の通りが遺っています。



角間川橋を望む角間川港の河岸(明治期)

## 河港のまち「角間川」の歴史

～歴史ある町並みと遊び心あるアートのまち「角間川」～

河港として繁栄した角間川には、国の重要文化財に指定されている「絹本着色當麻曼荼羅図」(絵画)を筆頭に、有形・無形の優れた歴史的文化遗产が多数残されています。

また角間川は、詩人「本郷隆」・洋画家「北島精六」をはじめとした多くの芸術家を輩出する「歴史と文化のまち」であり、「アートのあるまち」でもあります。



国登録有形文化財 日本郷家住宅



角間川浜蔵(未指定)



市指定有形文化財 松岡白石作品群



市指定有形文化財 紙本角間川港の図



市指定無形民俗文化財 角間川盆踊り

## 角間川・川のまち歴史交流の杜 整備事業概要

角間川の歴史や文化を伝承するため、本通りの旧地主屋敷群(本郷家・北島家・荒川家)の公有化と建造物の修理や整備を行います。公開活用を図ることで、地域間交流の促進と文化の振興による地域活性化を目指した歴史まちづくりを推進しています。

●補助事業 国交省・空き家対策総合支援事業補助金(旧荒川家住宅の整備)

●事業期間 平成28年度～平成37年度 10年間(前期5年、後期5年)

前期5カ年	三家の土地取得、建物改修・一部減築・案内所・トイレ等整備
後期5カ年	活用の中長期的な補充整備・NPO等管理体制の確立等

## 歴史的文化遗产の継承と活用

旧地主屋敷群を保存修理・改修して整備する「川のまち歴史交流の杜」を拠点に、角間川地区の歴史的文化遗产の継承と活用を図ります。

- 近代和風建築 国登録有形文化財「旧本郷家住宅」を核とする住宅建築群。本郷家は明治天皇東北巡行の行在所(あんざいしよ)・聖跡としての歴史を残す。
- 内蔵等の土蔵 三家ともに保存状態が良好。荒川家内蔵の黒漆喰は秀逸。河港跡に明治期の浜蔵二棟が現存し、文化財として高い価値を有する。
- 地主屋敷庭園 本郷家・北島家とも長岡安平による庭園設計図が現存しており、長岡の深い関与がある。調査・整備・活用等における国名勝旧池田氏庭園との連携が必要。
- 屋敷地と黒堀 黒堀が廻る本通りの景観は地主町発展のモニュメントであり角間川のシンボルのひとつ。
- 雄物川舟運 東北地方の主要な河川舟運における屈指の規模を誇る中継河港。現存する浜倉や石垣等については史跡としての文化的価値を有する。

## 川のまち歴史交流の杜

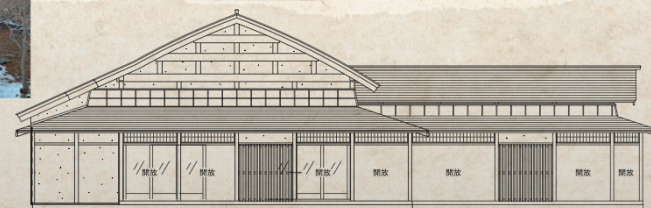
- 日本郷家住宅 国登録有形文化財として保存を図り、座敷等については一般の公開利用に供する。
- 旧北島家住宅 修理を行い保存を図る。文化財調査を行い、保存措置を検討する。
- 旧荒川家住宅 内蔵さやを全面改築する。老朽化が著しい味噌蔵は解体処理する。主屋は、柱・梁等を保存し本通りからの景観(ファサード)を保つうえで内部・間取りを大規模改修(リノベーション)し、管理施設等として活用する。



上: 旧荒川家住宅・主屋(座敷付近)



左: 改修イメージ(例/弘前市内まめめぐり休憩所)  
下: 旧荒川家住宅立面図(本通り側)





## 河港跡(親水公園)ゾーン

～浜倉から眺める河港跡の景観～

### ●ゾーン全体の特徴

河港の遺構や浜蔵2棟が残し、付近は親水公園として整備されています。雄物川舟運の歴史を伝える「河港のまじ角間川」の交流の拠点となっています。



河港跡に現存する浜倉2棟(明治5年建築)



角間川浜倉と角間川河港(親水公園)  
ドローン撮影:武蔵久夫氏

## 本通り(旧地主町)ゾーン

～本通りに残る旧地主屋敷群の景観～

### ●ゾーン全体の特徴

近世の在方商人から、近代の在村地主へと発展した在地郷町の変遷を伝える商人町(地主町)ゾーン。  
近代において大規模な地主屋敷群が形成されました。周辺は「本通り」と呼ばれ、現在も周辺には短冊状地割の商店・民家が多数残っています。



本通りの旧地主屋敷群(荒川家周辺)

## 事業計画地区 全体図



河港のまじ角間川・歴史まちづくり事業

角間川歴史まちづくり事業体系図

## 河港跡(親水公園)ゾーン

歴史的建造物と景観

史跡指定等に向けた調査等実施  
現地調査・既存施設の活用

## 内町(侍町)ゾーン

文化的景観・近世の町割り

景観改善のための啓発・まち歩き

## 本通りゾーン

旧家三家の建造物・造園空間

中核エリア  
「川のまち歴史交流の社」整備  
将来の公民館機能(一部)の移転を視野に入れたレイアウト

### 【主な機能】

- ①本郷家: 国登録建造物と庭園
- ②北島家: ギャラリー、ガイダンス、庭園
- ③荒川家: 収蔵庫、便益施設、広場

## 本通り・民間活力創出ゾーン

【黒塚通りの商店街との連携】

### 地域協働・地域連携

コミュニティ会議・地域活性化協議会・  
各種まちづくり市民団体との連携



往時の内町(昭和50年代か)



内町に残る  
旧侍屋敷のモミの木群と黒塚

## 内町(旧侍町)ゾーン

～鉤型の小路・黒塚と生垣が廻る侍町の景観～

### ●ゾーン全体の特徴

角間川の開拓、まちの起源として重要な歴史が残る侍町。敵の侵攻への防御となる屋敷の板塀(黒塚)や生垣、鉤型の小路に今も侍町のたたずまいが残っています。



**吉 本郷家の沿革** ※家紋：中陰鷲 屋号：ヤマキチ

江戸時代の元禄期(18世紀初頭)のころ、庄兵衛なる人が、現在の横浜市本郷地区(当時は前郷村本郷)から角間川に来て「能登屋市兵衛」方に奉公していたが、その働きぶりが評価されて現在地の辺りに独立し、吉右衛門を名乗って本郷家の始祖となりました。

2代が始祖の出身地にちなみ「本郷」を名乗り、以降7代まで吉右衛門を襲名します。明治・大正期には秋田県内屈指の大地主となりました。

近代の歴代当主は、いわゆる「秋田の腐れ米」の改善に取り組む秋田改良社の設立(6代の時代)や、雄物川通船貨物保険の運営を行うなど、地域の農業や経済の発展に大きく貢献してきました。



**国登録有形文化財(建造物)**

平成28年11月29日(官報告示)

名称 日本郷家住宅

所在地 秋田県大仙市角間川町字西中上町

構成 主屋・文庫蔵・洋館・味噌蔵

左上：旧本郷家住宅 主屋外観  
(ドローン撮影：武蔵久夫氏)

右上：旧本郷家住宅 主屋座敷

下：長岡安平による本郷家・庭園設計図(大正11年)



**北島家の沿革** ※家紋：茶の実 屋号：ハチボシ

北島家は、江戸時代に越後(現新潟県)から角間川に移り住んだと伝わっています。定住後、最上屋勘兵衛(最上家)から妻を迎え、油屋を始めたとき、後に酒造業を始め、藩の米や商い米を取り扱う商人となります。

江戸時代に大阪の蔵屋敷に米を回送した際に、京都で買い求め、北島家の菩提寺である浄蓮寺(角間川)に寄進したのが、現在、国の重要文化財(戦前の制度では国宝)に指定されている「絹本着色當麻曼荼羅図」です。

7代の虎之助は、明治22年(1889)に町村制が施行されると初代の角間川町長となり、その後、郡会議員を経て明治32年(1899)に県議会議員となりました。なお、9代北島震一氏が、秋田市立美術館(現秋田市立千秋美術館)の館長、また、その弟の北島精六氏が洋画家として中央画壇で活躍するなど、當麻曼荼羅図を選んだ審美眼をはじめ、美術に造詣が深い家柄でもあります。



旧北島家住宅・主屋の座敷(外観)と長岡安平設計による庭園

**荒川家の沿革** ※家紋：丸に三つ柏 屋号紋：井桁

荒川家は、荒川家の2代勘助(保助)が建立した石碑によれば、角間川に定住した経緯については記されていませんが、勘四郎の二男である勘助(享保13年[1728]生)を初代とし、2代勘助(保助)が弟の新右衛門とともに力を合わせ家業を大きくし一代で財をなし、藩への貢献が認められて苗字帯刀がご免となるなど、藩の御用にたずさわる大商人になったと記されています。

8代勘助は、第2次世界大戦後の農地改革など困難な時期に家政を取り仕切る苦難がありました。円満な人格者として慕われ、旧角間川町の町議会議員・教育委員、旧大曲市の教育委員等を歴任するなど、地域づくりに尽力しています。

地方史の資料などには、本郷家・北島家・荒川家(本家・分家)・最上家・地主家を総じて「角間川六人衆」と称する記述も見られます。



旧荒川家住宅 内蔵の蔵前(黒漆喰)と、さや飾り

**角間川・川のまち歴史交流の杜整備事業**

**敷地利用者導線図**



手前から荒川家・北島家・本郷家 (ドローン撮影：武蔵久夫氏)